第110号

こだま

発刊日　令和８年３月１日
発行者　青森県立三戸高等学校
ＰＴＡ広報委員会

感謝を胸に、次の歩みへ

ＰＴＡ会長　三代川将仁

このたび、二年間務めさせていただいたＰＴＡ会長としての役目を終えるにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。在任中は、学校行事やＰＴＡ活動を通して、多くの方々と関わらせていただき、貴重な学びと出会いに恵まれた時間でした。思うように進まないことや悩む場面もありましたが、そのたびに教職員の皆さま、役員の皆さま、そして保護者の皆さまの温かい支えに助けられ、ここまで歩んでくることができました。心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この学校で過ごした日々や出会った仲間、先生方との時間は、きっとこれからの人生を支える大切な力になることと思います。自分らしさを忘れず、それぞれの道を歩んでいってください。

在校生の皆さんは一つ上の学年に進み、新入生を迎えることとなります。先輩方が築き上げてきた三戸高校の伝統を引き継ぎ、日々の学校生活の中で、学ぶ楽しさや人とのつながりを大切にしながら、さまざまなことに挑戦してほしいと願っています。

校長先生をはじめ教職員の皆さまには、子どもたち一人ひとりに寄り添い、日々ご指導くださっていることに深く敬意を表します。また、保護者の皆さま、地域の皆さまには、お忙しいところＰＴＡ活動にご協力いただきありがとうございました。無事にＰＴＡの運営を行うことができましたのも皆さまのご協力のおかげです。今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

これからも本校が、子どもたちにとって安心できる学びの場であり続けることを願い、感謝の言葉とさせていただきます。

人間万事塞翁が馬

校長　直町　年行

「じんかん（にんげん）ばんじさいおうがうま」中国の故事成語である。「人間」は『世間』という意味を含むそうである。人生における幸・不幸は予測しにくく、いつ幸せが不幸に、不幸が幸せに転じるかわからないのだから、目の前の出来事に一喜一憂してはいけない、という意味です。

このことわざのエピソードは、概ね次の通り。

国境近くのとりで（塞）の近くに老人（翁）が住んでいた。あるとき、老人が飼っていた馬が逃げてしまい、それを知った近所の人が慰めると、老人は「これが幸福の兆しになるかもしれない」と言った。

数か月後、逃げた馬が優れた駿馬を何頭も連れて帰ってきた。それを人々が祝うと、老人は「これが不幸の原因になるかもしれない」と言った。

その後、老人の息子がその駿馬に乗って遊んでいると、落馬して脚を骨折してしまった。人々が見舞うと、老人は「これが幸福につながるかもしれない」と言った。

一年後、隣国との間に戦争が起こり、とりで近くの若者たちの多くが徴兵され戦死した。しかし、老人の息子は脚が悪かったため兵役を免れ、命拾いした。

このことから、物事の一面だけを見て動揺せず、どっしりと構える心の大切さを示す故事成語として今に伝わっています。

iPSの細胞でノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授は、ご自身のこれまでの人生がまさに「人間万事塞翁が馬」だったとおっしゃっています。

振り返ってみれば、私にも同じような経験がありました。若かりし頃は「なぜ自分だけが！」と不満に思うこともありましたが、今では絶対に必要な経験だったと思っています。

上手くいった経験はもちろん、失敗した経験も、突発的に起こった災難も、思いもよらない不幸も、どんな経験も必ず自分の役に立つ。そのような心の有り様は、すべての経験に意味を生み出すのだと思います。

卒業生の皆さんは今後さまざまな経験をすることでしょう。そのすべてを意味のあるものにしてほしい。そして、未来を切り拓いていってほしいと願っています。

令和七年度 各賞受賞者一覧

(1)校長賞　寺尾千織

(2)青森県高等学校ＰＴＡ連合会　会長賞　中村風香

(3)産業教育振興中央会　会長賞　千浦瑠杏

(4)全国商業高等学校長協会　会長賞　上田和奈

(5)青森県産業教育振興会　会長賞　千浦瑠杏

(6)全国商業高等学校協会　三種目以上１級合格者
三種目　上田和奈

(7)皆勤賞　寺尾千織
山口すみれ

(8)功労賞　クリエイティ部
岩間愁翔
千葉優思
上田和奈
大平珠来
小川真由
千浦瑠杏
上田和奈
放送局

あなたを思っている人

三学年主任　佐藤美智子

小学生の頃、何の本が好きか？と聞かれて『チッコペトリロ』と答えたら笑われたという思い出があります。そのせいか今でも覚えている外国の民話です。結婚式の宴でぶどう酒が足りなくなり、花嫁が酒蔵へ汲みに行きますが、なかなか戻ってきません。母親が探しに行くと、花嫁は樽から酒を出しっぱなしにして泣いていました。理由を聞くと、「やがて生まれる子どもにチッコと名付けるが、その子が病気で死んでしまったらどうしよう」と悲観していたのです。母も父も同じように泣き出し、その様子を見た花婿は呆れて、この花嫁親子より馬鹿な人に出会ったら戻ると言って旅に出てしまいます。

まだ生まれてもいない子の将来を心配して泣く姿は確かに馬鹿げています。しかし、昨今世の中で事件や事故のニュースに触れるたびに私はこの話を思い出します。わが子の将来や身を案じる親の気持ちは程度の差こそあれ共感できることではないでしょうか。

卒業生の皆さん、これから先、自分の命を大切にしてください。それは自分のためであると同時に、皆さんを見守り続けてきた家族を安心させることにもなります。

この物語の最後は、花婿は戻り、生まれた息子のチッコは長生きしたという結びです。たわいのない笑い話の結末ですが、やはりほっとする良い落ちだといます。

保護者の皆さま、今日までお子さまの成長を支え、見守ってこられた日々に、心から敬意を表します。卒業生のみなさんの未来が健やかで実り多いものとなることを願っています。ご卒業おめでとうございます。

進路状況について

進路指導部主任　野田頭利恵

今年度の三年生の進路状況は、四年制大学・短期大学が50%、専門学校が19%、就職が31%となりました。昨年度と比較すると、四年制大学・短期大学への進学希望者が大幅に増加しており、早い段階から進学を見据えて準備を進める生徒が増えたことがうかがえます。大学進学者の多くは総合型選抜や学校推薦型選抜を活用し、すでに合格を決めていますが、現在もなお二名の生徒が第一志望校合格を目指して挑戦を続けています。努力が実を結ぶことを心より願っています。

大学入試は決して平坦なものではなく、全員が一度の挑戦で合格を決められたわけではありません。しかし、諦めずに挑戦を続けた経験は、今後の人生において必ず大きな糧となるはずです。進学先はいずれも、自分で考え、選び取った場所です。それぞれの目標に向かって、主体的に学びを深めてほしいと思います。

一方、就職を希望した生徒は、企業選択に悩みながらも、夏休み中の企業見学や履歴書作成、二学期以降の面接練習に真剣に取り組み、全員が一度の試験で内定をいただくことができました。全国的にも人手不足の状況は続いていますが、企業が求めるのは「継続して働く力」です。縁あって内定をいただいた職場で、簡単に辞めることなく、社会人としての基礎を築いていってほしいと願っています。

また今年度は、弘前大学人文社会科学部文化創生課程に総合型選抜で合格した生徒もいます。総合的な探究の時間での学びを深め、自身の考えを学修計画書や面接で的確に伝えられたことが、合格につながったと考えられます。

一・二年生の皆さんには、日々の授業を大切にするとともに、早い段階から情報収集を行い、将来を具体的に考えてほしいと思います。大学入試も就職も、日々の積み重ねが結果に直結する時代です。自分の進路を「自分事」として捉え、主体的に準備を進めていきましょう。

今年度の進路合格先

2月17日現在

【大学・短期大学】

弘前大学　人文社会科学部
　文化創生課程
八戸学院大学　地域経営学部
　地域経営学科（二名）
八戸学院大学　健康医療学部
　看護学科
東北文化学園大学
　工学部　臨床工学科
東北工業大学
　ライフデザイン学部
　経営デザイン学科
東北生活文化大学　家政学部
　家政学科健康栄養学専攻
尚絅学院大学　人文社会学群
　人文社会学類
一宮研伸大学　看護学部
　看護学科
田園調布学園大学
　人間科学部　心理学科
八戸学院大学短期大学部
　幼児保育学科
仙台青葉学院短期大学
　救急救命学科（二名）
仙台青葉学院短期大学
　言語聴覚学科

【専門学校】

北海道芸術デザイン専門学校
　産業デザイン学科
　イラストレーション専攻
アレック情報ビジネス学院
　公務員科
アレック情報ビジネス学院
　総合事務科メディカルコース
東北メディカル学院
　理学療法学科
東北電子専門学校
　ゲームクリエーター科
東放学園専門学校
　放送芸術科

【民間就職】

スターゼンミートプロセッサー
株式会社　青森工場
　三戸ビーフセンター（二名）
株式会社アールホーム（二名）
株式会社　あべはんグループ
二戸ガス株式会社
山崎製パン株式会社（二名）
山善鉄工建設株式会社
株式会社　ユニカ
　マグレブ事業部

PTA活動を振り返って

貴重な一年

三学年委員長　松原　好辰

この度、学年委員長の任期を終えることとなりました。至らない点も多々あったかと存じますが、校長先生はじめ先生方、保護者の皆様の温かいサポートのおかげで今年度も無事に終える事ができました。

あいさつ運動や三高祭でのバザーなど子供達と触れ合う中で子供達の成長を間近で感じる事もでき大変うれしい一年となりました。

卒業後は進学、就職と様々な道になりますが、どこにいても良き仲間であってほしいと思っています。今後も一保護者として皆様と共に子供達を見守っていければ幸いです。三年間本当にありがとうございました。

活動を振り返って

健全育成委員長　上田　郁恵

三年間、健全育成委員として無事活動を終えることができましたこと、先生方保護者の皆様に感謝申し上げます。

年二回のあいさつ運動が主となりますが、朝の「おはようございます。」のあいさつを通し、生徒達の元気に登校する姿、笑顔を見て感じることができ、学校生活の一コマを見られました。短い時間の活動ではありましたが、私にとって良い経験になりました。これからも子供達を支えていけるよう皆様の御協力をお願い致します。三年間ありがとうございました。

つながりを感じたPTA活動

研修委員長　松澤　俊彰

保護者として、また研修委員会委員長としてPTA活動に関わらせていただいた一年間は、保護者同士や学校とのつながりを強く感じる時間でした。

文化祭ではバザーを担当し、準備から当日まで多くの保護者の皆さまと協力しながら進めることで、学校行事を支える一体感を味わうことができました。

研修会では、クリスマスリース作成を行い、ものづくりを通して和やかな雰囲気の中、交流を深めることができたことが印象に残っています。

また、体育祭での差し入れでは、生徒たちが全力で競技に取り組む姿を間近で見守り、子供たちの成長を改めて感じました。

限られた期間ではありましたが、PTA活動を通じて得たつながりや経験は、今後も大切にしていきたいと思います。

ありがとうございました。

感謝

広報委員長　畑沢美也子

広報委員として三年間、また今年度は委員長を務めさせていただきました。なかなか活動に参加出来ず、委員の皆様や先生方の御協力のおかげで無事に広報誌の発行や各種活動を終える事が出来ました。

私自身がかつて学んだこの母校に息子が通わせて頂き、改めて母校の素晴らしさを実感しながら、これまで続いてきた「こだま」の発行に携わる事が出来た事に感謝しております。

これからも地域の希望となって三戸高校が存続していく事と、この広報誌を通して子供達の成長やたくさんの笑顔を各家庭に届ける活動を紡いでいってほしいです。ありがとうございました。

球技大会

三年一組　千浦　瑠杏

今年の球技大会も一・二年生に引き続き体育委員会の仕事をしながらの出場でした。また、バスケットボール、バドミントン、ドッジボール、バレーボールと多くの種目に出場しました。今年は一・二年生の時とは少し異なり、体育委員長として競技運営、委員への指示など休むことなく動き回って大変でしたが、みんなの協力でスムーズに出来ました。三年連続で出場していたバスケットボールでは今年も優勝することができてとても嬉しかったです。また、ドッチボールでも優勝しました。今年は最後の球技大会で忙しかったですが、その分、良い思い出をたくさん作ることができて良かったです。最後に、ずっとそばで助けてくれた浜中先生ありがとうございました。

▶フットサル

▶バスケットボール

▶バレーボール

▶ドッジボール

▶卓球

▶バドミントン

スキー教室

奥中山高原スキー場
令和８年２月６日㈮

２年１組　櫻　井　　惺

今年度のスキー教室では、前年度の初級から中級に挑戦し、プルークボーゲンではなくパラレルで滑りました。前を向き、膝を曲げ、外側の親指に重心を置くことを意識して練習しました。インストラクターさんから上達していると褒められ、自信につながりました。みんな真面目に取り組み、諦めず楽しそうに滑っていたのが印象的でした。今後もプライベートで続けたいです。